

令和5年度岡山県高校生議会 参加校質問項目

第1部

質問 順位	質問 高校	質 問 項 目	答 弁 を 求 め る 者
1	岡山県立津山東高等学校	1 岡山県のイメージアップについて 2 若者の投票率増加について	総務委員長
2	岡山県立倉敷古城池高等学校	1 水島コンビナートの脱炭素化に向けた取組について 2 自動車・自転車を含めた交通マナーについて	産業労働警察 委員長
3	岡山県立岡山御津高等学校	1 河川整備の進め方について 2 安全・安心な河川整備について	土木委員長
4	中国デザイン専門学校	1 プラスチックのリサイクルについて (1) 過去の方針 (2) 効果等 (3) 高いリサイクル率達成の取組	環境文化保健 子ども福祉委員長
5	岡山県立興陽高等学校	1 豊作時における農作物の廃棄について 2 昆虫食について	農林水産委員長
6	創志学園高等学校	1 非行防止のための家庭支援について 2 非行防止のためのSNS活用について	産業労働警察 委員長
7	金光学園高等学校	1 私立高等学校の授業料等無償化について 2 公共交通機関（鉄道、バス等）の維持について	総務委員長
8	岡山県立岡山芳泉高等学校	1 海外留学の促進について (1) 英語教員の採用資格 (2) 留学経験のきっかけづくり 2 いじめ防止対策について	文教委員長

第2部

質問 順位	質問 高校	質 問 項 目	答 弁 を 求 め る 者
9	岡山県立岡山朝日高等学校	1 ヘルメットの着用について 2 サイクルツーリズムの推進について	産業労働警察 委員長
10	岡山県立玉島商業高等学校	1 用水路等転落事故の対策について	土木委員長
11	明誠学院高等学校	1 子育て支援について 2 保育人材確保について	環境文化保健 子ども福祉委員長
12	岡山県立玉野高等学校	1 不登校対策について 2 生成AIの教育利用について	文教委員長
13	岡山理科大学附属高等学校	1 担い手確保対策について 2 スマート農業について	農林水産委員長
14	岡山県立和気閑谷高等学校	1 生き生きプランについて 2 SNS等によるイメージアップについて	総務委員長
15	岡山県立玉野光南高等学校	1 循環型社会の形成について	環境文化保健 子ども福祉委員長
16	岡山県立倉敷鷺羽高等学校	1 通学路の整備について 2 空き家対策について	土木委員長
17	岡山県立倉敷青陵高等学校	1 県立高校の空調設備について (1) 実習室等への固定式クーラーの設置 (2) 公費化	文教委員長

岡山県立津山東高等学校

総務 1 岡山県のイメージアップについて

岡山県で活躍する人と魅力的な場所を掛け合わせたPRを行い、本県に住んでいる人はもちろん、全国に本県の多くの魅力を伝えたい。現在行っている「岡アツ！」PRにより本県に興味を持つ人がどれくらい増えたかなどの成果と、このPRを県内外にどのように広めたいか、併せて総務委員長に伺いたい。

総務 2 若者の投票率増加について

平成28年から18歳、19歳の人でも選挙に参加できるようになったが、直近の衆院選では、県内の19歳の投票率は約22%と18歳の投票率の半数以下となっており、19歳からの投票率が低いのは、選挙や政治について汚職などのネガティブな情報が多いため、選挙や政治に苦手意識を持ち、選挙に行かない若者が多いと考えた。県は、若者の選挙への関心が低いのはどのような問題があるからだと考えているのか。

また、投票できる場所が市街中心部などに固まっており、選挙への参加のしやすさに地域格差があるのではないか。現在県が行っている取組、又は検討している対策について、併せて総務委員長に伺いたい。

産労 1 水島コンビナートの脱炭素化に向けた取組について

警察 水島コンビナートでは、2050年カーボンニュートラルの実現を目指すとし、これの実現に向けた取組の推進にあたっては、情報提供、立地に関する補助制度等の活用、総合特区制度を活用した規制緩和等の支援を実施していくと、国や地方自治体の役割を取組方針で示している。水島コンビナート企業が、CO₂の回収・利用を進める研究や技術開発等を進めていくため、県として、企業の取組をどう支援するのか。

また、2050年に向け、今後どう取り組むのか、併せて産業労働警察委員長に伺いたい。

産労 2 自動車・自転車を含めた交通マナーについて

警察 令和4年、岡山県は人口10万人あたりの交通事故死者数が全国1位で、この要因に交通マナーの悪さがあると思う。生徒からも通学中に危険を感じたという声をよく聞くが、県警が注意喚起等したことによる改善もみられ、今後も効果的な啓発活動を行ってほしい。

また、ヘルメットの着用も努力義務化され、注意喚起等により着用率の向上が予想される。自動車・自転車を含めた交通マナーの向上のために、今後どのような取組を行うのか、産業労働警察委員長に伺いたい。

土木 1 河川整備の進め方について

5年前、記録的な豪雨に見舞われ、小田川や砂川などで堤防が決壊し、河川氾濫により甚大な被害を受けた。岡山御津高校の東側には旭川、南側には宇甘川が流れている。特に旭川は横を走る国道53号が堤防の役目を担っているが、路面には凸凹やひび割れ等も見られ、地域住民は不安に感じている。河川の堤防整備等が必要な箇所は多数あるが、どのような場所から優先的に河川整備を進めるのか、土木委員長に伺いたい。

土木 2 安全・安心な河川整備について

旭川は普段は穏やかだが、大雨が続くと恐怖を感じることもある。夏にカヌー体験に参加し、楽しい反面、川の怖さも体験した。水辺が整備されれば、自然に親しむ場所、憩いの場所としての活用が考えられる。自然災害が頻発化し、防災・減災意識が高まっている中、このような交流・学びが行え、さらに防災・減災の意識を高められるような河川整備について、土木委員長に伺いたい。

環文 1 プラスチックのリサイクルについて

保福 (1) 過去の方針

岡山市で来年3月からプラスチックの分別回収が始まることは素晴らしい一歩だが、これまで可燃物としてごみに出せていた理由に疑問を抱いている。その背後にある理由や考え方を知ること、今後の方針がより理解しやすくなると思うので、過去の方針について詳しく、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

(2) 効果等

分別回収を通じてプラスチック資源を有効に回収することが、県が掲げる循環型社会形成にどのくらい効果をもたらすのか。

また、分別回収によって、地域の環境負荷を軽減することにもつながると思うが、リサイクルを通じて新たなプラスチック製品を生産する際に、どの程度の資源の削減が期待できるのか、詳細な情報について、併せて環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

(3) 高いリサイクル率達成の取組

倉敷市が、人口10万人以上50万人未満の市町村で、リサイクル率が4位だと知った。これは誇るべき成果だ。倉敷市がこの高いリサイクル率を達成するために、どのような取組を行ったのか、具体的な事例や成功要因について、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

農林 1 豊作時における農作物の廃棄について

食品ロスや食料自給率といった諸課題が山積する中、豊作時における農作物の廃棄はそれに逆行するもので、SDGsが掲げる目標「持続可能な生産消費形態を確保する」の達成には、この状況を打破する施策が必要だ。このことをどう考え、解決のために行っている施策はどのようなものがあるか。また、その効果はどうか、併せて農林水産委員長に伺いたい。

農林 2 昆虫食について

世界では昆虫食が持続可能な食糧として注目されており、環境への影響も少ないとされているが、昆虫食に対するイメージは良くない。しかし、みどりの食料システム戦略では、新たなタンパク資源として昆虫の利活用拡大が挙げられており、県内でも民間企業が食用としてコオロギを飼育・加工して販売している。昆虫食についてどう捉えているのか、農林水産委員長に伺いたい。

創志学園高等学校

産労 1 非行防止のための家庭支援について

警察 小中学校と連携した非行防止教室の実施により、刑法犯少年は減少傾向が続いている。しかし、非行率は全国平均を上回っており、依然として高止まりで、現在の取組では改善が見られていない。非行要因の一つに家庭環境があり、問題を抱えている家庭の背景を理解し、手を差し伸べるべきと考えるが、今後少年非行防止にどう取り組んでいくのか、産業労働警察委員長に伺いたい。

産労 2 非行防止のためのSNS活用について

警察 県の公式YouTubeにおいて非行防止意識を高める動画等を配信しているが、登録者数が少なく影響力が低いと考える。多くの若者はSNSから情報を取り込むため、非行防止の啓発動画をさらに充実させSNSで発信すれば、若者の目にもとまりやすく非行防止意識が高まると考えるがいかがか、産業労働警察委員長に伺いたい。

金光学園高等学校

総務 1 私立高等学校の授業料等無償化について

私たちの学校では、毎年授業料や教材など約 69 万円を親に出してもらっており、国の就学支援金と県の私立高等学校納付金減免補助金をもらっても、多くの家庭が毎年 23 万 4 千から 27 万円を学校に収めている。大阪府では、府民を対象に、授業料等 63 万円までを支給する所得制限のない高校授業料完全無償化制度を来年度の高校 3 年生から始める。また、奈良県では来年度から世帯年収 910 万円未満の県内の私立高校に通う県内在住の生徒を対象に 63 万円までを支給する方針だ。高校の選択肢が増え、進学や就職の幅が広がるとともに、少子高齢化対策や子育て支援につながる無償化に取り組んではどうか、総務委員長に伺いたい。

総務 2 公共交通機関（鉄道、バス等）の維持について

公共交通の維持こそが、少子高齢化対策に重要であり、市町村レベルではなく、県主導での利用しやすい環境整備が必要だ。県民の将来への不安を和らげるためにも、一層手厚いサポートや効果的な施策を実施してほしい。これまで実施してきた施策とそれにより向上した点、改善した点、さらに今後取り組む予定の施策について、併せて総務委員長に伺いたい。

文教 1 海外留学の促進について

(1) 英語教員の採用資格

子どもたちにとって最も身近な大人の一人であり、子どもたちに普段から留学を勧めることができる英語教員の採用資格について、海外留学を必須とすることを提言する。そうすれば、子どもたちに英語の必要性と、留学の有用性を語る可以增加する人材を増やすことができ、将来的に留学者を増やすことができると思うが、文教委員長の見解を伺いたい。

(2) 留学経験のきっかけづくり

高校生がそれぞれの目的や意向に沿った「留学プラン」を作成する機会を設けるといふ施策はどうか。留学したいと思っても、留学までの準備や手続き等で断念する学生も少なくないため、大学での留学を見据えて、小さなステップとして高校生のうちに経験を積んでおくといふきっかけづくりになるのではないか、併せて文教委員長に伺いたい。

文教 2 いじめ防止対策について

県内のいじめの認知件数は、全国と同様に増加しており令和4年度は前年度から638件増加し、6,723件であった。いじめを認知するためには教員がクラスの様子を把握しておく必要がある。アンケート用紙によりいじめの実態を調査しているが、教員の負担が多くなる等、問題点があるため、教員の負担増加とならずいじめを見逃さないよう取り組む必要がある。①iPad等の情報端末を用いたアンケートの実施、②外部の専門家やPTAの保護者に学校の様子を見てもらう機会を増やす、③いじめへの関与の有無に関わらず、月に1回、子どもに対してカウンセリングを実施、④子どもたちの道徳心を育むために、いじめに関する授業を増やす、という4つの解決策を提案する。この解決策について、文教委員長に伺いたい。

産労 1 ヘルメットの着用について

警察 令和4年、岡山県は人口10万人あたりの交通事故死者数が全国1位であり、また、今年4月から自転車乗車時のヘルメット着用が努力義務化されたが、着用率は全国平均より低い。岡山県の交通事故の多さをどのように捉えているか。

また、ヘルメット着用率向上にどのように取り組んでいくか。

さらに、自転車事故を減少させるための具体的な対策はあるか。併せて、産業労働警察委員長に伺いたい。

産労 2 サイクルツーリズムの推進について

警察 県では、サイクリングロードを整備し、8つの推奨ルートを設定してホームページで紹介し、多くの人に利用されているが、実際に走行してみると、路面や交差点の安全性を高めたり、観光関連の情報発信や案内表示を充実させたり、サイクリストの休憩スペースを増やしていく必要も感じる。より魅力的なサイクリングロード地域にしていくためには、こうした意見を吸い上げて観光振興の観点から改善していく場を設けるべきだが、いかがか。

また、観光列車 La Malle de Bois (ラ・マル・ド・ボア) では自転車も乗せることができ、こうした取組を他の電車にも導入すれば観光振興につながると考えるが、いかがか、併せて産業労働警察委員長に伺いたい。

土木 1 用水路等転落事故の対策について

用水路等転落事故の実態把握は、具体的にどのような行っているのか。

また、用水路の転落事故を減少させるためには、様々な機関と早期からの連携が必要だが、安全対策啓発ポスターの配布や危険箇所の点検などの他県での取組を岡山県でも考えているのか、併せて土木委員長に伺いたい。

明誠学院高等学校

環文 1 子育て支援について

保福 岡山市は入院は高校卒業まで、通院は小学校卒業まで医療費の助成、倉敷市は誕生記念樹の配付、中学校卒業までの医療費の助成のように子育てに対しての支援が薄いのに対し、吉備中央町では出産祝い金、記念品の贈呈、育児用品購入費の助成、高校卒業までの医療費無料など手厚く、地域によって支援に差が生まれている。この差をなくすために県では何か行っているのか、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

環文 2 保育人材確保について

保福 岡山市の待機児童数は、平成30年度から令和5年度までの5年で、37施設が新たに増えた結果、希望を考慮しなければ、ほとんどカバーできるまでに受皿が広がり、4月時点の待機児童は1人まで減った。

市は待機児童問題はほぼ解決したとしているが、保育士不足を理由に定員まで受け入れられない園も多いといわれており、待機児童はまだ多いと思われる。保育士不足解消のため、県ではどのような取組を行っているのか、環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

文教 1 不登校対策について

国の調査によると、令和4年度の小・中学校における不登校児童生徒数は299,048人であり、前年度から22.1%増加し、過去最多となった。要因は無気力や不安、生活リズムの乱れ等、本人に起因するものが6割を超えている。長期休業明けには学校に行きたくないと思う児童生徒が多くなり、不登校になりやすい時期と言われている。長期休業明けに不登校にならない取組として、長期休業中に学校で自由研究や実験等、普段の授業と違う時間を過ごす機会を設けてはどうか。

また、新学期の3日前から午前中だけ登校する機会を設けてはどうか。併せて文教委員長に伺いたい。

文教 2 生成A I の教育利用について

小学生が作文などの宿題を生成A Iに頼ると、自分で考え、自分の言葉で表現することができない小学生が増え、生成A Iに人格があると勘違いし、信頼してしまう。そのため、低学年の児童にもわかりやすいように、生成A Iの適切な利用について解説した啓発動画を作成して視聴させたり、高学年の児童には、生成A Iについての議論を重ね、使う際に生じるメリット・デメリットを学ばせる機会を設ける必要がある。今後、県では、こうした状況を踏まえ、生成A Iの教育利用について定めたガイドラインを作成する予定はあるのか、文教委員長に伺いたい。

農林 1 担い手確保対策について

「21 おかやま農林水産プラン」によると、新規就農者の確保・育成を加速させるとあるが、これまでの具体的な成果はどうか。

また、県内に限らず、大都市圏での広報活動が必要だが、県外での活動はどうか。さらに、農業の魅力を知らってもらう一例として、イベント型援農ボランティアの開催を提案するが、中高生のような若い世代に農業の魅力を発信するために、どのような取組を行っているか、併せて農林水産委員長に伺いたい。

農林 2 スマート農業について

ブドウや桃などの果樹栽培では、大規模なスマート農業が取り入れにくいのが、現段階でどのような技術が活用できるのか。

また、大学などの研究機関や企業との連携等、今後どう技術開発を促進するのか。加えて、スマート農業機器導入の補助金などの支援はどう行われているか、併せて農林水産委員長に伺いたい。

総務 1 生き生きプランについて

第3次生き生きプランは大変重要な計画であることがわかったが、どのくらい県民に認知されているか疑問だ。県で把握している生き生きプランの認知度はどのくらいか。

また、認知度が低いのであれば生き生きプランに県民の声は反映できているのか。そして、生き生きプランの目標や課題、2040年頃の岡山の将来像はどのような判断や参考とするものがあって作成したのか、併せて総務委員長に伺いたい。

総務 2 SNS等によるイメージアップについて

「生き生き指標」では、公式SNSのフォロワー数を倍近く増やし、限られた予算の中で好感度を上げなければならない。フォロワー数を増やすためにどのような取組をしているのか。

また、認知度が低く、あまり活用できていないように思うが、どのように考えているのか、併せて総務委員長に伺いたい。

環文 1 循環型社会の形成について

保福 本県は繊維産業が盛んであり、製造過程等で不要になった繊維製品を循環資源として活用することで循環型社会の形成に役立つと思うが、「おかやまフードトリップ」のような仕組みを衣料品にも適用するなど、今後、食品以外で、循環資源マッチングシステムを行う計画はあるか。

また、衣料品等のリサイクルのための仕組みを将来的に行うことは可能か、併せて環境文化保健子ども福祉委員長に伺いたい。

土木 1 通学路の整備について

私たちの通学路に多くの危険な箇所があり、不安を感じている。岡山県での各道路管理者等による令和3年度の合同点検では危険な通学路が1,423か所あるとの報道があった。危険な通学路を整備して安心して登下校できるようにすべきだ。通学路については、現在どのようなところを整備しているのか。また、今後、通学路の整備をどのように進めていくのか、将来に向けての展望を土木委員長に伺いたい。

土木 2 空き家対策について

岡山県には約14万戸の空き家がある。空き家は景観を損ね、倒壊の危険がある上、防犯上も大変危険だ。最近では、空き家を有効活用する動きも増えてきたが、少子高齢化が進み、必然的に空き家が増えている現状においては、地域住民が空き家を管理したり、有効利用することは困難だと思う。それよりも、空き家を取り壊し、跡地を有効利用する方が将来のためになるのではないか。今後の空き家対策をどう進めていくのか、その具体的内容や予算について、土木委員長に伺いたい。

岡山県立倉敷青陵高等学校

文教 1 県立高校の空調設備について

(1) 実習室等への固定式クーラーの設置

暑さ指数による活動の制限は熱中症予防としては効果的だが、学校の教育活動に大きな支障となる。職業学科のある高校では、実習室に空調設備が設置されておらず、非常に厳しい環境の中で、工業や家政の実習などが行われている。また、学校の体育館は災害時の避難所としての役割を果たすことも多いが、国の調査によると、令和4年9月1日現在で公立高校の武道場などを含む体育館等の空調設備の設置状況は、東京都39.2%、本県0.6%で、東京都は体育館には全校設置済みだ。本県の体育館の空調設備の整備は遅れており、全ての高校生が等しく、恵まれた環境の中で学校生活を送るためにも、実習室と体育館への固定式クーラーの設置は急務ではないか、文教委員長に伺いたい。

(2) 公費化

本県の県立高校では、教室などの空調設備の費用は保護者負担である。令和4年7月時点で徳島県が行った調査を基に私たちが調べたところ、普通教室の空調設備を公費で整備しているのは42都府県であり、また、設置費だけではなく、電気代等の維持管理費についても40都府県が公費で負担している。他県に比べてとても遅れているが、電気代も含めた空調設備の費用はいつ公費化されるのか、文教委員長に伺いたい。